

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年12月19日				
ブラムしあわせ						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		・十分な部屋数を確保している。	・おやつのときなどに集まる際、もう少しスペースがあるとよい。 ・子どもたちが遊びたい場所が一緒になると手狭に感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4		・職員は基準定員を満たしている。	・もう一人いていただければ余裕が持てるかなと思う。 ・子ども1名についていなければいけないときなど、スタッフが増えるとういと思う。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		・視覚支援をするなど、子どもにわかりやすい環境になるよう努力している。	・わかりやすい環境だが、バリアフリーではない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		・寒暖にも対応し、加湿器を使用するなど工夫されている。	・1階にもう1部屋あるとよかった。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		・支援室は子どもたちが選択して使えるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		・ミーティングだけでなく、気づいたことを職員で共有できている。 ・朝のミーティングで意見を出し合い、振り返りをしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・職員面談を年に2回実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		・第三者による外部評価は行っていない。今後の改善事項である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		・webを活用した研修（動画配信）を行った。 ・研修終了後に伝達講習を実施している。（打ち合わせ時に内容報告、資料の回覧等）	・研修会は日程や曜日によって参加が難しい場合が多い。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		・支援プログラムを作成し、ホームページで公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		・子どもと保護者のニーズを踏まえ、心理検査や行動の記録を図式化し、課題を整理した上で、個別支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		・支援にかかわる職員全員で、支援計画見直しのための話し合いが行われている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	・保護者から検査結果をいただき、それを参考に支援にあたっている。 ・日々の行動の記録をつけている。	・標準化されたものを使用していない。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		・職員で話し合って決定している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		・外部講師の活用を図りながら、プログラムに変化を持たせている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		・朝のミーティングで共有されている。	・夏季休業中など、長期休業日は打合せを行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	3	・朝の打ち合わせ時に必ず振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		・朝のミーティングを通して記録が蓄積されている。それをもとに、支援計画の見直しに反映させている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			・地域交流の機会はなかなか持つことができていない。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・児発管を中心に対応している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		・保護者を通して、医療機関や福祉機関等との連携をとっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		・学校のメーリングリストに加えていただいて、月行事予定等の情報を共有できている学校がある。	・連絡調整については、共有できていない学校もある。 ・連絡網に登録できている学校とそうでないところがある。 ・下校時、利用日にもかかわらず、児童が下校してしまうことがあった。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	・保護者を通して入学支援シート等、保育所・幼稚園等の情報提供をいただいている。	・今後、新1年生の利用希望者が増えることが想定されるので、関係機関との連携がより必要である。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		4	・卒業生（該当者）はまだいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	・地域の児童発達支援センターを訪問し、連携を図っていくことを確認している。	・研修を受ける機会はない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4		・連携している事業所（「プラムだいすき」）との交流がある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		4		・今年度、参加の実績がなかった。 ・開催通知があった場合には、積極的に参加する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		・連絡帳や引き渡しの際に情報を共有し、子どもの発達の状況や課題について共通理解を図るようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4	・チラシを掲示し、情報提供している。	・ペアレントトレーニングは実施していない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		・利用開始前に丁寧に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		・子供や保護者のニーズ調査を実施するとともに、それを踏まえた支援計画の作成を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		・相談援助の意向調査を実施し、保護者の意向に基づいて、個別面談の機会を設けた。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		4		・保護者や兄弟同士で交流する機会は設けていない。保護者のニーズを確認しながら進めていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		・苦情解決のためのマニュアルを作成している。重要事項説明書に窓口を明記し、保護者に説明している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		・ホームページを活用し、活動予定や概要を子どもたちや保護者に発信している。また、SNSにて、個別に活動の様子を写真で紹介するなど、情報発信に努めている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		・興味をもたれた住民の方に活動の様子を見学いただいたく機会はあったが、限定的であった。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		・災害を想定した避難訓練を実施している。	・防犯対策に関する研修会は実施できていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		・業務継続計画（BCP）の見直しを進めた。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		・事前に服薬等の確認を行っている。現在該当者はいない。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	・食物アレルギーの子どもがいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		・安全点検票を作成し、点検を実施した。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1		・子どもの安全確保についての取り組み内容を保護者に十分に説明をしていく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		・ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた具体策を決定している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		・虐待防止委員会で研修会を実施し、職員会で協議する時間を確保した。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		・虐待防止委員会について説明している。 ・保護者への説明を行っている。	・身体拘束を行う状況を想定している子どもはいないが、安全確保のために、手をつかんだり、体を押さえたりなどの対応をとることを事前に保護者に説明しておく必要がある。